

## ユネスコ・スクール フォーラム in 釧路

### 開催要項

#### 開催趣旨

現在、人類は地球温暖化などの環境問題をはじめ、持続性のうえで非常に大きな課題に直面しています。これに対応して、平成20年に告示された『学習指導要領』のほか、同年に文部科学省より発表された「教育振興基本計画」にも、「持続発展教育」(ESD: Education for Sustainable Development)の考えが取り入れられるなど、学校におけるESDの重要性が重視されるようになってきています。特に「教育振興基本計画」のなかでは、「持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進」が取り上げられており、一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題を自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESDの重要性が明記されています)。

持続可能な社会の形成に向けて、教育現場において大切なことは、子供たちが自分の住む地域について十分に知ることです。この活動を基にして、さらに外国の学校と交流することで、地球規模の視野を獲得し、「グローバルに考えること(Think globally)」も可能になります。

こうした交流の実現を可能にするための既存の学校間国際交流のネットワークとして、ユネスコ・スクール・ネットワーク(ASPnet)があります。ユネスコの理念・精神は、ESDの内容と合致するものであり、世界中のASPnet加盟校(ユネスコ・スクール)ではさまざまなESD関連の活動が展開されて、相互の交流が行われています。現在、ユネスコ・スクールには、世界176カ国で約8000の学校が参加しており、我が国においては2009年6月現在で79の幼・小・中・高等学校および教員養成学校が加盟しています。ユネスコ・スクール加盟校同士の間で、互いに関心のある課題について情報や体験を分かち合うことで、地球規模の諸問題に対して、新しい教育内容や手法の開発、発展を実現することが可能になります。

北海道教育大学釧路校では平成19年度より文部科学省に認定されたESDに関する教育実践プロジェクト(現代GP)に取り組み、さらに昨年にはESD推進センターを設置するなど、従来よりESDを担う教員養成に取り組んで参りましたが、このたび「日本/ユネスコ パートナースイップ事業」の支援を受け、ユネスコ・スクールの理念や具体的な活動を釧路地域の学校関係者や市民のみなさまに広く知っていただくことで、地域のみなさまと連携しながらESDをいっそう力強く推進してゆくことを目的として、本フォーラムを企画しました。

日時 平成21年11月21日(土) 午後1時～午後5時

場所 釧路市生涯学習センター(まなぼっと) 会議室(801)

主催 北海道教育大学釧路校 ESD 推進センター

共催 ユネスコ・スクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)

後援(予定)

北海道教育委員会、釧路市教育委員会、北海道ユネスコ連絡協議会、  
釧路ユネスコ協会

北海道教育大学現代GP「持続可能な社会実現への地域融合キャンパス」

プログラム

午後1時～

主催者挨拶 生方 秀紀 (北海道教育大学釧路校 ESD 推進センター長)

来賓挨拶 千葉 誠一氏 (釧路市教育委員会 教育長)

山田 和弘氏 (釧路ユネスコ協会 会長)

基調講演 「日本におけるユネスコ・スクールの取り組みについて」(仮)

豊嶋 美穂子氏(文部科学省国際統括官付ユネスコ第二係 係長)

午後1時50分～2時 休憩

午後2時～ フォーラム 司会:川崎 惣一(北海道教育大学釧路校准教授)

国際理解教育の実践(開発教育にかかわる教材作成のための材料提供)

戸松 栄氏 (釧路市立山花小中学校校長)

ユネスコ・スクール加盟校からの実践報告

廣瀬 修也氏 (東京都江東区立東雲小学校)

堀井 良徳氏 (富山市立中央小学校)

菊田 斉氏 (気仙沼市立大島中学校)

岩槻 仁氏 (気仙沼市立面瀬小学校)

午後5時 閉会の挨拶

神田 房行 (北海道教育大学釧路校教授 本フォーラム実行委員長)

(以上)